

家庭でできる！ 水損写真レスキュー

大切な思い出は
まだ助けられる！

熊本県教育庁教育総務局文化課

目次

| | |
|----------------------|----|
| 注意事項 | 3 |
| 準備するもの | 4 |
| 用意する真水について | 5 |
| 事前作業 | |
| ビニル袋に入れている場合 | 6 |
| 写真単体の場合 | 7 |
| 写真同士がくっついている場合 | 8 |
| アルバムや額に入れている場合 | 9 |
| 保護フィルムや紙などが貼り付いている場合 | 10 |
| 応急処置 | |
| 水洗作業の手順 | 11 |
| 乾燥作業の手順 | 12 |
| 参考 | 13 |

注意事項

- ・衛生上、必ずゴム手袋をして作業にあたってください。
- ・作業前に水損写真をスマートフォンやデジカメで撮影しておくで安心です。
※水損して時間が経過している場合、以下のことが考えられます。
保護フィルム等に画像が貼り付いたまま離れてしまう。
水洗作業の際に、一部画像が水で流れてしまう。
- ・写真が他のものとくっついている場合、決して無理に剥がさないでください。
※画像が破損し、より状態が悪化します。

準備するもの

- 1 真水
- 2 写真より一回り以上大きい容器
- 3 水温計 (あれば)
- 4 薄手のゴミ手袋
- 5 ピンセット
- 6 洗濯バサミ (写真の数×2 あれば理想)
- 7 新聞紙

用意する真水について

1 真水を用意できる場合

準備：コンテナに真水を入れる。

水量：写真やアルバムを寝かせて完全に浸る程度。

水温：20～30℃

※室温と同じくらい。晴天であれば、外にコンテナごと置くとよい。

2 真水を用意できない場合

冷凍庫があれば、ビニル袋に入れて密封。真水が入手できるまで冷凍。

冷凍庫がなければ、そのまま乾燥作業へ（12ページ）

※写真の応急処置をしてくださるボランティア団体などもあります。

ビニル袋に入れている

すぐに袋から取り出す。

※湿気がこもってカビ発生の要因になるため。

写真単体

そのまま，水洗作業の手順へ。（11ページ）

※写真単体とは？

一枚の写真が，他の写真や物とくっついていない状態。

又は、アルバムや額などに入っていない状態。

写真同士がくっついている

1 まだ濡れている場合

濡れているうちに1枚ずつ剥がす。

2 すでに乾いている場合

簡単に剥がれなければ、無理に剥がさず水洗作業の手順へ。

(11ページ)

※乾いて固着している場合、剥がしにくい場合は無理に剥がさない。

アルバムや額に入れている

1 アルバムがまだ濡れている場合

簡単に開けるようであれば、アルバムから写真を慎重に取り出す。

(水洗の余裕がなければ、各ページを開いてアルバムを立てて風乾。)

2 アルバムがすでに乾いている場合

簡単に開くことができなければ、無理に開かずに水洗作業の手順へ。

(11ページ)

※乾いて固着している場合、剥がしにくい場合は無理に剥がさない。

保護フィルムや紙がついている

1 まだ濡れている場合

なるべく早うちに剥がすか、写真から離す。

2 すでに乾いている場合

簡単に剥がれなければ、無理に剥がさず水洗作業の手順へ。

(1 1 ページ)

※乾いて固着している場合、剥がしにくい場合は無理に剥がさない。

水洗作業の手順

1 泥を落とす

- ①コンテナに溜めた真水の中に写真をゆっくり入れる。
- ②写真をゆっくりと優しくゆすって、泥を慎重に落とす。
※泥を直接拭わないように注意してください！
- ③ピンセットで端をつかみ、水中から引き上げ、重ねないようにしながら新聞紙の上に平置きする。

※写真が他のものとくっついている場合

上記の手順後、きれいな真水に浸けてゆっくり優しく剥がす。
場合によっては30分程度浸け置きが必要な場合もある。

乾燥作業の手順

1 乾燥場所の確保

直射日光が当たらない，通気性の良い場所が最適。

2 乾燥作業

新聞紙上に平置きした水洗作業後の写真の端を，洗濯バサミ等で留めて吊るす。

※吊るす場所がない場合は、平置きのまま風乾させて良い。

ただし写真同士を重ねないように。

参考

- ・被災写真救済ネットワークホームページ
(<http://www.rescue-photo.net>)
- ・歴史資料ネットワークホームページ
(<http://siryo-net.jp/>)
- ・FUJIFILM被害を受けた写真・アルバムに関する対処法
(<https://www.fujifilm.com/jp/ja/consumer/support/photo-printing/fukkoshien>)